



Part 1 (新着資料から)

BOOK 『International statistical classification of diseases and related health problems. 10th revision 2nd ed.』 (World Health Organization 2004)

本書の和名は、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第2版」であり、通称、ICDと略称される。医師や医療情報管理士を除いて、普段、本書を目にする機会は少ないので、その内容につき簡単に触れておく。ICDは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈および比較を行なうため、世界保健機関(WHO)憲章に基づき、その専門家委員会が作成した世界共通の分類である。最新版は、1990年の第43回世界保健総会で採択されたもの(ICD-10)の修正版(2003年版)であり、その電子媒体版をWHOのウェブサイトでダウンロードが可能である。わが国では、2003年版に準拠した疾病、障

害及び死因の統計分類基本分類表、死因分類表、疾病分類表が総務省から告示され、各種統計や医療機関における診療録の管理等に活用されている。2003年版は、第1巻(22章から成る3語コード(A00~Z99)分類表)、第2巻(解説書)、第3巻(アルファベット・インデックス)から構成される。我が国では、国民の健康水準および医療水準を地域別あるいは経年的変化として捉えるために活用されてきた。最近の新たな動きとして、疾病別包括支払い制(DPC)の導入が検討されている。この制度が実施されると、病名の特定は極めて重要になる。薬剤師もICDに深い知識が必要な時代になってきた。学生諸君も、是非、活用していただきたい。

岡野 登志夫 記

DVD 『目で見える薬理学 第2版』

薬理作用を理解するためには、薬理学の関連領域である機能形態学(臓器の構造とその働き)、生理学、生化学などの知識が必要とされる。薬理学は難しく、理解しにくいと思っている人は、これらの関連領域の知識と薬物を関連づけて勉強できないのではないだろうか。本シリーズのDVDは先に図書館に納入されたビデオ版を新しく改変したものであり、薬物の作用を理解するために必要な関連領域をもわかりやすく解説しており、重要な薬物の作用機序から副作用、相互作用まで自然に学べるように工夫されている。DVDの内容はvol.1 心疾患の治療薬、vol.2 高血圧・他の治療薬、vol.3 血液系疾

(医学映像教育センター 2005 全12巻)

患の治療薬、vol.4 呼吸器系疾患の治療薬、vol.5 消化器系疾患の治療薬、vol.6 代謝性疾患の治療薬、vol.7 炎症と免疫性疾患の治療薬、vol.8 感染性疾患の治療薬、vol.9 悪性腫瘍の治療薬、vol.10~12 中枢神経系作用薬となっている。このDVDシリーズを有効に活用して是非薬理学の理解を深めて欲しい。また同様に病態に関しては先の図書館ニュースNo.34,2005.10で太田先生よりご紹介いただいた<DVD>「目で見える病気第2版」がある。こちらも参考にし、病態と薬物との関連についても理解を深めて欲しい。

山田 潤 記

もくじ CONTENTS

ブックガイド(新着資料から) 岡野登志夫・山田潤 ... 1	図書館の座席に関するアンケートまとめ 6
ブックガイドpart2(専門分野別) 平井みどり 2	日英対訳の雑誌を読んでもみませんか 7
図書館長に就任して 味村良雄 3	薬剤師のためのDI資料(18) 長嶺幸子 8
受入図書から 4~5	お知らせ 8


 part 2 (専門分野別)
BOOK GUIDE

 平井 みどり
(臨床薬学研究室 教授)

 「薬剤師に必要な
コミュニケーションスキル」

医療現場におけるコミュニケーションには様々な要素が含まれ、その中で薬剤師がとるべき役割は、「上手な服薬指導」といった単純な言葉でくれないものとなっている。

薬学教育にコミュニケーションが取り入れられてからの日は浅い。そもそも「コミュニケーションなど、教育が必要か?」という疑問をお持ちの方もあると思うが、日々ディスコミュニケーションの例に遭遇している者としては、その必要性は大いに実感しているところである。折角の機会なので、いくつか資料をご紹介します、参考にして頂きたいと思う。

まずは宣伝で申し訳ないが、平井みどり他監訳「薬局におけるコミュニケーション能力の開発と実践」(じほう) 心理学的な基礎理論から実践までを網羅した感のあるよくできた本である(原文は)。この本と互いに補完しあうものとして、竹内由和訳「コミュニケーション実践ガイド」(じほう)があり、この2冊を読めば、米国薬剤師が目指すコミュニケーションのあり方が明らかになって大変参考になる。日本薬学会編「ヒューマニズム・薬学入門」(東京化学同人)も入門書としてはおすすめである。

薬剤師業務に関連するものとしては、井手口直子他「保険薬剤師ビギナーズマニュアル 心得12章」(テクノミック)が初心者薬剤師におすすめ。保険薬剤師として働くための書類申請から実務内容まで幅広く網羅している。薬歴紙の見本や学会への参加方法など、付録として掲載されているのも参考になる。患者とのコミュニケーションの取り方など、大いに参考になる一冊であろう。佐藤幸一他訳「薬剤師のカウセリングハンドブック」(じほう)は、薬局薬剤師と病棟薬剤師、さらに大学での研究を兼任するカナダの薬剤師が執筆。患者カウセリングの概要を知り、基本的なコミュニケーション法を学ぶことができる。薬学生にもおすすめの1冊であり、著者のメッセージに、「コミュニケーションの仕事をするために一つの方法がある。それは患者に話しかけたり、質問したり、

情報を伝えたりすることだけではなく、患者のことを本当に心配し、ケアしたいという態度を示すことだ」とある。また薬剤師が苦手とする「心の病気」を持つ患者とのコミュニケーションについては、町田いずみ著「薬剤師のための医療コミュニケーションスキル 心をつなぐ服薬指導」(じほう)があり、医療コミュニケーションのコツ、Q&A形式を用いたコミュニケーション方法学習、薬剤師が日常業務でかかわる心の病気に対する対応について、わかりやすく解説している。

リスクマネジメントの観点から、コミュニケーションの重要性が着目されている。米国の事情を示すものとして長谷川友紀監訳「患者と減らそう医療ミス：患者は安全パートナー」(エルゼビア・ジャパン)は医師、看護師、病院経営者、弁護士などが執筆し、「患者参加型の医療安全」について専門的視点から多面的に取り上げている。関連して、患者側の視点は極めて重要である。佐伯晴子著「あなたの患者になりたい：患者の視点で語る医療コミュニケーション」(医学書院)は、模擬患者活動を行ってきた立場から、辛口の意見も述べられており、前田泉他の「患者満足度：コミュニケーションと受療行動のダイナミズム」(日本評論社)は、経営学の立場から“患者中心の医療”とは何かを解析し、今までほとんど評価されることのなかった「患者満足度」を客観的なエビデンスに基づいて検証している。

一般書も紹介しておきたい。コミュニケーションの基本は「聞く(聴く)こと」である。高嶋幸広著「図解『聞く力』が身につく本」(PHP文庫)は、すぐに使える技法が詰まっております。人間関係や仕事上の問題解決の一助となるだろう。仲正昌樹著「なぜ「話」は通じないのか：コミュニケーションの不自由論」は、いま社会の様々な場面で「話」が通じなくなっている現状を、哲学・思想的な観点から分析し、真の意味での「対話」の必要性を鋭く説く。ぜひ皆さんに読んで頂きたい本である。

図書館長に就任して

図書館長 味村 良雄
(数学研究室 教授)



神戸薬科大学図書館は、全国薬学系図書館の中でも、蔵書の質や量において充実し、利用しやすい図書館であるとの評価を得ていると聞いております。また、薬系の特徴を生かしたテーマ展示を設けるなどのユニークな試みも行なわれています。さらに、昨年の学生アンケートによりますと、よく利用する施設として、食堂・談話室について図書館があげられています。4月から、この図書館長に就任することになり、研究活動と勉学に役立つ図書館を目指して、職員・運営委員の協力のもと、精一杯努力したいと考えております。

薬学系図書館として、薬学専門資料の充実はもちろんのこと、今年度から6年制教育に拡張された薬学教育で全学年を通して学生に強く求められているヒューマンズを学ぶ姿勢を醸成する教養資料やそれと専門を繋ぐ資料の充実にも目を向ける必要があると考えております。

また専門資料の大きな部分を占める学術雑誌については、紙から電子媒体へ急速に移行し、オンラインによる検索と合わせて、デジタル情報が主役になっています。それらが効率的に利用しやすい環境の整備に今後も引き続き取り組んでいきたいと思っております。ただ、その媒体がどうあれ、限られた予算に対して、学術雑誌の年間購読料の高騰は大変深刻な問題になっています。

次に、学生の図書館利用の目的の大きな部分として、自習室の利用があげられます。しかし多くの学生からその不足が指摘されています。近い将来やってくる学生総数の増大も考えると、端末として学生が自由に使えるコンピュータの増補とともに自習室の拡充が必須であろうと思われれます。

利用者が利用しやすい図書館にしていくためにも、皆様からのご意見や示唆をぜひともお願いいたします。

指定参考書

本学図書館の指定参考書をご存知ですか。指定参考書は一般図書とどこが違うのか、図書館のどこにあるのか、どのように管理されているのか、などについてまとめてみました。

- 【定義】指定参考書とは、教科担当者がその教科の講義を行うに当たり、教科書以外に講義の内容を補足発展させる「教員指定の学生専用図書」を指し、指定参考書の内容も、試験、演習などの出題対象になり得るものです。
- 【選定】図書館では、毎年教科担当者が提出（教務課）されるシラバスの原稿をもとに新年度の指定参考書調査を行い、当該年度のすべての指定参考書を揃えています。
- 【配架場所・冊数・貸出】図書館4階指定参考書コーナーに配架し、正本1冊（禁帯出）、副本20冊以内（貸出用：通常6冊程度、貸出期間：3日間）として、学生が効率よく利用できるよう整備しています。
- 【広報】図書館ホームページより、担当教員名と科目名から指定参考書が確認できます。また、指定参考書一覧（教員別）を館内に掲示しています。
- 【利用頻度】貸出頻度統計において、指定参考書はいつも貸出ランク上位を占めています。また、講義中で紹介された指定参考書の利用頻度は非常に高くなります。
- 【参考】指定参考書の整備を中心とした経費を、私立大学等経常補助金・「教育・学習方法等改善支援経費」に申請し、5年連続、採択されています。

教員の皆様、学生の皆様、是非、指定参考書を有効にご活用ください。

書名	著者名	出版社
科学するまなざし	村上陽一郎監修	中央公論事業出版
理科系のための入門英語論文ライティング	廣岡慶彦	朝倉書店
医療事故は予防できるか	日本学術協力財団編	日本学術協力財団
理系のための上手な発表術	諏訪邦夫	講談社
10年使える有機スペクトル解析	新津隆士他	三共出版
薬学のための無機化学	桜井弘編著	化学同人
温暖化の「発見」とは何か	スペンサー・R・ワート	みすず書房
バイオ実験で失敗しない!検出と定量のコツ	森山達哉編	羊土社
DNAの時代期待と不安	大石道夫	文藝春秋
いのちの平等論	竹内章郎	岩波書店
医薬英語論文用例マニュアル	杏林製薬株式会社文書課	日経メディカル開発
新しい機能形態学	江川祥子他	廣川書店
脳とホルモン	松尾壽之他	共立出版
毒物・中毒用語辞典	Anthony T.Tu編著	化学同人
病原体とヒトのバトル	山田毅	医歯薬出版
薬剤師のための臨床検査の知識 改訂2版	池田千恵子	じほう
臨床栄養と薬剤師	笠原伸元	大阪府薬剤師会
救急治療・薬剤ハンドブック	山本保博監修	じほう
これは便利!セルフメディケーションのヒント	Kirsten Lennecke	じほう
薬剤師・薬学生のための臨床医学	矢崎義雄他編	文光堂
不眠症と睡眠薬	徳島裕子編集	フジメディカル
抗うつ薬の功罪	デイヴィッド・ヒーリー	みすず書房
抗菌薬・消毒薬Q&A	阿南節子編著	じほう
がんばらず、あきらめないがんの緩和医療	黒丸尊治	築地書館
研修医・看護師・薬剤師のためのまちがいのない抗癌剤の使い方 第2版	森武生監修	三輪書店
環境・健康科学辞典	日本薬学会編	丸善
100%医薬分業への課題	中澤圭子	薬事日報社
医療機関のための個人情報保護法対応マニュアル	日経メディカル編	日経BP社
実践!患者満足度アップ	前田泉	日本評論社
臨床指標の実際	医療マネジメント学会監修	じほう
クリニカルパスがかなえる!医療の標準化・質の向上	立川幸治他編	医学書院
サプリメントデータブック	吉川敏一他編	オーム社
こうして防ぐ院内感染	金森雅彦他	医歯薬出版
薬学生・実習指導者のための実務実習ガイドブック	日本薬剤師研修センター総監修	南山堂
ファーマシューティカルコミュニケーション 基礎編	ファーマシューティカルコミュニケーション研究会編	南山堂
薬学的臨床研究のすすめ	大井一弥	じほう
法律からわかる薬剤師の仕事	白神誠	じほう
ドラッグストアQ&A	大西恵明他監修	薬事日報社
新人薬剤師えい子と学ぶ薬局実務入門	上村直樹他監修	薬事日報社
目からウロコのクスリ問答	荒井有美	医学書院
服薬指導のリスクマネジメント	沢田康文	日経BP社
新世界の医薬品集・薬局方	佐々木宏子	薬事日報社
処方せんからみた病気と薬の実践問題集	堀美智子監修	じほう
医薬品のプロセス化学	日本プロセス化学会編	化学同人
CRCのための治験業務マニュアル	小西敏郎監修	じほう
処方せん鑑査と問い合わせ	荒井なおみ	南山堂
抗がん剤調製マニュアル	日本病院薬剤師会監修	じほう
保険薬局におけるPOSの実際 改訂	塚元和弘他監修	じほう
内服薬調剤基本と実践	鈴木洋史他編集	じほう
食品薬学ハンドブック	北川勲他編	講談社

(化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

『「健康によい」とはどういうことか』

斎藤清二著 晶文社

生命予後の中央値はなにも語らないから会話が始まる。「ナラティブ・ベイト・メディスン」耳慣れない言葉である。おなかが弱いとはどういうこと？患者さんはなぜ安心できないの？身近な風邪やストレス等の実例をあげて、健康や病気について考える。実行不可能なアドバイスも納得できる。個人の実状にあわせた根拠のしっかりした医療の重要性が強調される。(A)



『東京タワー：オカンとボクと、時々、オトン』

リリー・フランキー著 扶桑社

現代社会で忘れられ掛けている、親と子の絆、それを中心にした家族、親族との関係を優しく語りかけ、親友も含め、生きる深さと愛おしさが感動的に表現されとても読みやすい。人としての「大切なもの」を忘れることなく、持ち続けたいものです。ベストセラーになっているようですが、きっと心に残る、何かがあるはずです。(T,N)



『博士の愛した数式』

小川洋子著 新潮社

80分間しか記憶をもたない博士、家政婦、そしてその息子の交流を描いた話です。数字の美しさと思いやりに溢れた本で、穏やかな気持ちにさせてくれます。

読みやすく、またじっくり味わって読みたい作品です。今春、映画化もされています。様々な魅力が相まって、読めばきっとお気に入りの一冊になるのではないのでしょうか。(Y.M.)



『もったいない』

プラネット・リンク編 マガジンハウス

日本語の「もったいない」(MOTTAINAI)は、ノーベル平和賞受賞者でケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ博士により地球環境を守る世界共通語として提唱されています。物を惜しむこと以上にそれを得るまでの努力や苦勞、時間や歴史を失う悲しみを訴えられているのです。この作品で今一度「けち」ではなく「ものを大切にする」という日本古来の美德の精神をよみがえらせようではありませんか。(K)



『ユダヤ人大富豪の教え』

本田健著 大和書房

日本人のお金に対する意識が貯蓄から投資へと変化してきている一方で、お金自体をどう扱うか、については手探りなのではないだろうか。なぜならお金に対する教育を受ける機会が小中高では全くないからである。本書ではあるユダヤ人の老人が日本人の若者を通じて「お金に対する自らの心をコントロールする力」について教えてくれる。お金のみならず全ての事象は自らの意志の力により決定されるということに気づくだろう。(J.K)



『生協の白石さん』

白石昌則著 講談社

「豆？」...そんな質問に答えられるでしょうか。そして、そんな質問を思いつけるでしょうか。白石さんもすごいけれど、学生たちもすごいのです。そんな両者のやりとりがたくさん詰まった、とても楽しい1冊です。自分が回答者だったら、どう答えるかな？と考えながら読めば、頭の運動にもなります。一石二鳥のお得な本かもしれませんね。吹き出してしまうので、立ち読みには不向きです。(N.K.)



《図書館の座席に関するアンケートのまとめについて》

図書館の利用調査の一環として、昨年度平成17年10月1日から平成17年10月20日までを調査期間として、別記の **内容** で「図書館の座席に関するアンケート」を実施しました。

期間の都合上、当時の4年次生の方には参加していただけませんでした。強制回答の形式ではなく、任意回答の形式で学部1-3年次生の方から **グラフ** の様にご回答いただきました。今後の図書館運営の参考にさせていただきます。今回のアンケートにご協力いただきありがとうございました。

《アンケートの内容》

1. あなたの学年と性別は？

2. 図書館の座席数は足りていますか？ 足りている 足りない

「足りない」と答えられた方にお聞きします。

どんな席が足りませんですか？一番足りないと思うもの一つにチェックして下さい。

また、もし増設するならば、図書館内が良いですか？ 図書館外でもかまわないですか？どちらかにチェックを入れて下さい。

図書館内が良い 図書館外でも良い

一人用席

6人がけ程度の閲覧席

パソコン席

ソファ

小グループディスカッション用の席

3. 館内に飲食・休憩のためのスペースが欲しいですか？ はい いいえ

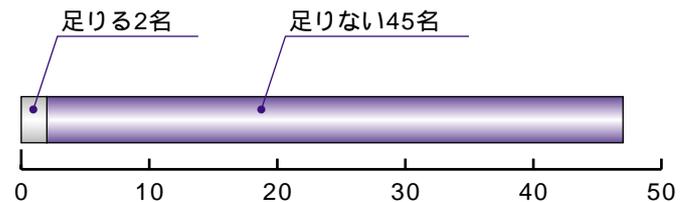
4. 現在、図書館で使用している机と椅子を新調して欲しいですか？ はい いいえ

5. その他、図書館に関して意見があればご自由に記入して下さい。

回収数

1年次生	2年次生	3年次生
4名	28名	15名

2. 図書館の座席数は足りていますか？

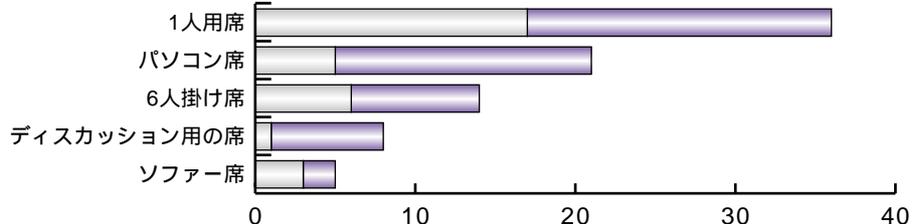


どんな席を、

何処に増設するのが良いですか？

図書館内

図書館外

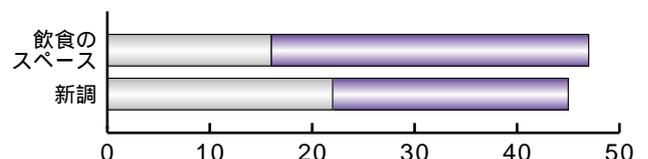


3. 館内に飲食・休憩のためのスペースが欲しいですか？

はい いいえ

4. 現在図書館で使用している机と椅子を新調して欲しいですか？

はい いいえ



日英対訳の雑誌を読んでもみませんか...

図書館で購入している雑誌の中には、日英対訳の雑誌があるのをご存知でしょうか？ 利用者の希望雑誌も含めてご紹介いたします。

1) 注目の英文論文 (Topic) を日本語対訳で学びたい人向け

「Nature」 「Nature 月刊ダイジェスト」

本学図書館で購入している「Nature」が2004年から並行して刊行している和文雑誌に「Nature 月刊ダイジェスト」があります。

「Nature 月刊ダイジェスト」には「Nature」本誌が取り上げた記事の中から、Editorial、News Feature、Commentary、Books and Arts、Concepts、News and Views、Brief Communications など、Nature ならではの定評ある一般科学記事の中から選り抜かれたものを日本語に翻訳、16 ページに渡って掲載されています。

2) 英文の科学雑誌本文を日本語の対訳で読みたい人向け

「Scientific American」 「日経サイエンス」

本学図書館で以前から購入していた「日経サイエンス」誌の原著である、「Scientific American」誌を2006年から購読することになりました。

「Scientific American」誌は1845年にニューヨークで米国の技術者向け科学雑誌として創刊され、現在に至っています。これの日本語訳版が、「日経サイエンス」誌です。「日経サイエンス」誌の構成は「Nature 月刊ダイジェスト」と異なり、各「月号」全体が和訳されており、また日本の読者からの投稿も含まれています。

3) 英語の会話文を日本語で読みたい人向け

「The Voice of EJ」

この雑誌は2004年から新規に購読開始した「English Journal」誌のコンビ雑誌です。英和対訳と言うより「そのまま訳」といった方がよいかも知れません。左ページに英文が、右ページには和訳が有る、という構成になっています。「English Journal CD 版」が同内容で発行されています。

また、その英文には「リスニングCDのトラック」が準備されており、原文(英文)をヒアリングで日本語に「バイリンガル・ユース」するというような実践的な使い方ができます。

4) 日本語の中に英語が混じっている方が良いナア、という人向け

「アエラ-イングリッシュ (Aera English)」

本学図書館で以前から購入していた「アエラ」の英語バージョン。対訳は「最近来た人」「ヘラルド朝日を読む」「バックンの対談」等で、映画や時事的話題が英文ではこんなお知らせ、といった感じの肩の凝らない内容の雑誌です。



薬剤師のためのDI資料 18

『高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2005』

日本老年医学会 編集
メジカルビュー社, 2005

高齢者への薬物治療は、若年成人を対象にした臨床試験の結果や使用経験から行われていました。しかし高齢者は生理機能が低下し、多剤併用することが多いので薬物有害作用が出現しやすいという問題がおこります。そこで薬物有害作用防止の観点から「安全性」に主眼を置いた高齢者薬物療法ガイドラインの作成が必要になってきました。本書を作成するにあたり、非常にエビデンスが少なく、多くの薬剤に関しては専門家のコンセンサスに拠ったということです。

本書の構成は「ガイドラインの目的と使用法」、高齢者に対して特に慎重な投与を要する薬物リストや薬物療法の問題点と対策、そのほか飲み忘れないための工夫等を示した「一般的指針」、「老年症候群」や「系統別指針」の4つの章に分かれています。又付録として、CYPに影響する薬剤や薬剤以外の物質のリストや併用禁忌薬などが示されており、薬剤師にとっても非常に役立つ本であると思います。

長嶺 幸子 記

2006年度学術雑誌について

学術洋雑誌の新規購読 (電子ジャーナルのみ)

BBA - Molecular Basis of Disease

Carbohydrate Research

電子ジャーナルのみへ移行

BBA - Molecular and Cell Biology of Lipids

Experimental Biology and Medicine

Journal of Biological Chemistry

Journal of Infection and Chemotherapy

Journal of Magnetic Resonance Series A & B

Naunyn-Schmiedeberg's Archives of Pharmacology

European Journal of Medicinal Chemistry

International Journal of Pharmaceutics

Journal of Inclusion Phenomena and Macrocyclic Chemistry

Journal of Lipid Research

Journal of Plant Research

薬図協電子ジャーナルコンソーシアム参加

American Chemical Society (継続)

InterScience (継続)

Science Online (継続)

SpringerLink (継続)

Blackwell (継続)

Oxford University Press (継続)

ScienceDirect (新規)

学術洋雑誌・不定期刊行物の購読中止

Chemistry and Industry

Annual Reports on the Progress of Chemistry, Section A,B,C

お知らせ

平成17年4月1日から、「個人情報の保護に関する法律(通称:個人情報保護法)」が施行されました。それに伴い図書館でも延滞者への督促連絡方法を掲示から「Webメール」に変更しました。延滞期日から2週間後には該当者のメールボックスに届きます。注意して確認しておいてください。

今年度のテーマ展示コーナーは「コミュニケーションスキルと薬歴管理」(ブックガイドPart2参照)です。資料を整備してご利用をお待ちしています。

昨年度のマルチメディア整備に引き続き、4階閲覧室へDVDメディア「目で見える薬理学入門 第2版」(ブックガイドPart1参照)シリーズを受け入れ中です。この資料は、「日本私立学校振興・共済事業団」の「経常費特別補助金」で整備しているものです。貸し出しもできますので、利用をお待ちしています。

A1サイズまで印刷できるカラープリンターを準備しています。ポスター等の印刷に便利です。お問い合わせは図書館まで。

去る、平成17年12月6日に私立大学図書館協会・阪神地区相互利用担当者連絡会が本学図書館を当番校として開催されました。大阪府、兵庫県、和歌山県内の49大学・短期大学が参加しました。

神戸薬科大学図書館ニュース No.35

編集・発行 神戸薬科大学図書館

2006年(平成18年)4月1日発行

神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号(〒658-8558)

TEL(078)441-7512 FAX(078)435-2080

URL <http://www.kobepharma-u.ac.jp/library>